

☆木曾岬町立木曾岬中学校区の取組

◆事業概要



1 中学校区の現状と課題

厳しい家庭環境に暮らす子どもや外国につながる子ども等、支援を必要とする子ども達は、様々な要因により、自尊感情の高まりや学習意欲の向上を阻まれている状況があります。さらには、自分が育った地域に対する愛着や帰属意識が高められていない等の課題も明らかになっています。

そうした子ども達の現状や課題を共有し、子ども達を励まし、認めたりすることで安心して学べる環境をつくっています。身近な地域住民や卒業生の中から、「生き方モデル」を発掘して、子ども達との出会いの機会を設定することで、子ども達が抱えている課題を解消できるように支援を行っています。

2 課題解決のための主な取組

(1) 小学校「インターナショナルデー」

A L Tや地域に住んでいる外国人の方々をはじめ、12か国12名の外国につながる人達がゲストティーチャーとして小学校を訪れました。自国の学校のことや遊び等について話をしたり、簡単な遊びの体験活動をコーディネートしたりしました。全学級の子ども達と保護者が、様々な国の人達からその文化や習慣等について学び、それぞれの国の文化の一端にふれることができました。

(2) 中学校「木曾中フェスティバル『文化講座』」

中学校の文化祭である「木曾中フェスティバル」の2日目に「文化講座」を開催し、地域住民と中学生とのつながりを深めました。文化講座は、手芸、和菓子づくり、和太鼓、フラダンス等の10講座で、どの講座も地域住民である講師の熱心な指導により、大変有意義な体験となりました。子ども達は、講師からほめられたり、励まされたりすることで自尊感情が高まり、ふれあいを通して地域への愛着をもつきっかけとなりました。



フラダンス講座

(3) 小学校夏季学習会

地域在住の大学生が学習ボランティアに入り、5日間の小学校夏季学習会を実施しました。子ども達は、夏休みの宿題や各学年で用意されたプリント学習に取り組みました。初めは緊張した様子であった子ども達も、回を重ねるごとに、意欲的に質問し、コミュニケーションをとるようになりました。また、6年生の児童が、夏季休業中のボランティア体験の一環として、学習会後半の時間帯に「まるつけボランティア」の活動を行いました。この活動を通して、学年を越えたつながりが深まり、6年生にとっては「自分は頼りにされている」といった自信をもつ機会となりました。



大学生ボランティアによる夏季学習会

(4) 通学の見守り

ネットワークを構成する委員や団体、地域住民による通学の見守り活動が実施されています。毎日の挨拶や声かけによって、地域住民と子どもとの関係が深まっています。子ども達の中には「今日は朝ごはん食べたよ」と、生活の一コマを話す場面もあり、子どものくらしを丸ごと受け止めて支援をしていくというネットワークの絆が深まりました。

◆実践を振り返って

学校と地域が目的を共有して連携を図り、子ども達を支援することによって、子ども達は地域住民から見守られ、大切にされていると実感することができました。また、地域で活躍している住民や大学生の先輩等の「生き方モデル」に出会うことで、多くの子ども達が自分の将来をより具体的に想像することができました。また、地域への愛着を高め、学習意欲を高めるきっかけづくりにもなりました。

今後も必要とする子ども達の自尊感情や学習意欲を高めていくために、より多様な主体と連携・協働して子ども支援ネットワークを充実させていきたいと考えています。